

Case Study 1

彼女を通じての 10年の経験とノウハウは、会社にとっても 貴重な財産となっています。

株式会社日立製作所

資材部 業務グループ 池田由美子さん

障害等級2級

昭和35年生まれ36歳。昭和60年、障害者職業訓練校卒業後、(株)日立製作所に入社。脳性マヒによる四肢体幹機能障害。笑顔を絶やさない明るい性格は職場の誰からも愛されている。家庭に帰れば5歳になる息子の良き母親。趣味は「休日に、一日中、息子と夢中になって楽しく遊ぶこと」と言い切る。

上司からのメッセージ

資材部 業務グループ 部長代理 飯島 健之氏

障害もひとつの個性ととらえれば、健常者であれ障害者であれ、コミュニケーションに格差はありません。職場の同僚もこうした意識で池田さんに接してきましたし、池田さん自身も前向きに努力してきたために、10年にわたって仕事を続けてこられたと思います。

言語に障害があることを考慮して、会話がなくなる折衝業務以外の仕事を任せるようにしている点と社内行事などあらゆる機会への参加を呼び掛けること以外は、障害者だからといって特別な対応はしていません。障害を克服し、さらに育児を含めて家庭と仕事を両立させている池田さんから私達同僚が生き方を学ぶことの方が多いような気がしています。

人事部からのメッセージ

本社が基本的な方針と雇用の仕組みを立案し、実際の取り組みを事業所で行うというスタイルで障害者雇用を進めてきた。50事業所全体に雇用拡大をさせるため、「社内雇用納付金制度」や「奨励金制度」、「設備等に関する助成金制度」を取り入れた。納付金制度は各事業所が雇用目標未達成の場合に毎月一定額を本社に納付する制度、奨励金制度は障害者を新規雇用した場合に一定額を1年間本社から支給する制度。いずれも事業所の収支に影響が出る仕組みである。また、助成金制度はトイレや生産設備の改善、社宅・寮の改造、駐車場の確保、通勤対策などに対して本社が助成金を支給する制度である。



パソコン操作をマスター中

関連機関と連携し障害者一人ひとりの職務適性を把握

株式会社日立製作所は昨年、障害者雇用優良事業所として労働大臣賞を受賞した。昭和51年以来約20年にわたっての障害者雇用の取り組みが高く評価されたのである。現在、雇用する障害者は重度510名を含めて1000名に達しようとしている。

全国に50カ所の事業所があり、「障害の部位・程度に応じた適正な配置、健常者と同じ成果を得るための教育や施設の充実、評価と処遇は健常者と同じ基準、この3つを基本方針として障害者雇用を進めてきました」(人事教育部人事課長 山ノ川孝二氏)

障害者の職場定着という点から、障害者職業訓練校、障害者職業センター、公共職業安定所をはじめとする関係機関とのつながりを大切にしてきた。

関係機関との連携は採用段階や適正な配属にも現れている。能力・適性面、安全面からの職場配置も、学校の先生や産業医と相談しながら障害者一人ひとりにあった職種を検討、1週間から2週間の入社前職場実習を実施したり、本人の適性や職場環境の改善の必要性などを事前に確認し、仕事のミスマッチをできる限り少なくする努力を払っている。

月間で1000件に達する 購買依頼案件を処理

池田由美子さんもこうしたステップをたどり資材部業務グループに配属になった。池田さんは脳性マヒにより左半身に筋肉の緊張があるのと言語に多少の障害がある。しかし、自力での歩行には支障はなく、訓練校時代に習得したキーボード操

作もスピードは遅目だが正確である。

現在の主業務は、本社の各部署で使用する備品、消耗品等の購入依頼伝票のチェック。必要な記載事項を確認して関係する購買グループへ回す。そして、納品後の納品伝票の照合と保管管理。月平均1000件に達するが、日によって仕事量のバラつきがある。空いた時間を有効活用したいと、池田さんは、資材部で使用する事務用品・消耗品などの在庫管理、新聞・雑誌の回覧、郵便物の仕分けや配布などの業務も自分の仕事として取り組んでいる。

「資材部全体では60名の同僚がいますが、誰もが健常者と同じコミュニケーションをしてくれます。私がこの職場を気に入っている理由のひとつです」(池田さん)

オフビジネスも、登山旅行やボーリングなどの行事に同僚は当たり前のように誘うし、池田さん自身も積極的に参加する。

これまでの枠を打ち破って 新しい仕事を自分のものにしたい

オフィスでのパソコンの普及はめざましい。電子メールなどのネットワーク利用やグループウェアによる共同業務が進むにつれ、新たな業務が生まれてくる。池田さんの目標は「仕事領域の拡大」だが、その課題として「パソコン操作をマスターすること」がある。

「今でもパソコンは利用していますが、もっともっとスキルを高めたいのです。資材部では年間で20におよぶ教育研修のプログラムがあり、教育用資料のデータをパソコンデータにする計画があるんです。ワープロソフトと表計算ソフトをマスターしないと良い資料ができません。自分の職域を広げることが後輩たちの可能性につながります。ですからどうしても課題を克服したいんです」(池田さん)

入社して10年。池田さんは現状に満足することなく、つねに新しい挑戦を続けている。



郵便物の仕分け作業

会社概要

- 社 名/株式会社日立製作所
- 本社所在地/東京都千代田区神田駿河台4-6
- 業 種/総合電機・電子機器メーカー
- 事業内容/情報エレクトロニクス、電力システム、産業システム、交通システム、家庭電器等の製造・販売。